

令和元年 8 月 13 日

令和元年度第 2 回政策討論会第三分科会要点記録

○令和元年 8 月 13 日（火）15：00～16：00 第一委員会室

出席者：友永（座長）、宇野（副座長）、殿本、米田、京西、稲田、中井、岸田

・岸和田市農林水産課 山田課長より、農業漁業の出荷組合、出荷額等の現状について説明を受けた。

※本市内には阪南漁港があるが、管理は大阪府が担当しており、主に農業を中心に説明を受けた。

・農産物や水産物について、ブランド化を図りながら販路の拡大について、岸和田市としては、どのような支援を行っているのか。

⇒（農林水産課長）岸和田市として水産業振興事業を行っているが、内容として、漁港等の環境美化等の支援であり、直接的な支援は行っていない。大阪府が直接的な支援を行っている。

・大阪府の支援策を紹介し、繋げていると考えていいのか。

⇒市としては、様々な団体があるので、その中に入っているが、直接的な支援はない。

・最近、岸和田は港オアシスに認定された。また、漁協に新しくレストランの様なものが出来たが、市としては人を寄せるための支援、ハード面も含めた支援を行っているのか。

⇒各漁協に出資（支援）しているのは環境美化についての支援と、各組合で団体を持っている所に入っているが、市からの補助金を…。直接的な事（支援）はない。

・それら団体は、市に対して直接的な支援を求めているという事か。

⇒現場からは、厳しい形で意見を頂いている。（市は何もしてくれない！）また、直接的な支援としては難しい所もある。港を管理しているのは府であり国である。現実には、そこにはなかなかはいっていけない。

・例えば、現在、岸和田でも良く水揚げされるシラスを活用したシラス丼を岸和田定食としてアピールしているが、あのような仕掛け、ブランド化を図り全

国に広めていくという流れ、岸和田市が広報しながら、岸和田の港に集客を図ると言う流れが描いている理想なのか。

⇒農業も含め、活性化が喫緊の課題であることは間違いない。しかし、そこにつながる施策の展開、支援策については行えていない。

・レストランへの直売と資料にあるが、この様な取組を岸和田市は行っているのか。

⇒これは愛彩ランドへ農家が持ち込んだ農作物を材料にしているという事である。それ以外には、特段おこなっていない。

・彩誉については、以前は4Hクラブが生産したものを大阪市内のレストランで材料として使用してもらった経緯がある。そのための補助金があったと思うが継続しているのか。

また、包近の桃を活用したスイーツをYOKOGAWAが作っていた。今度、愛彩ランド近くに有名スイーツの工場兼店舗が出来ることが、そこへの販路拡大等を図る事は考えているか

⇒補助金については確認できていない。また我々の部署では流通までは難しいと考える。流通は出荷組合が行う事になるかと考える。

・販路拡大が見えれば、生産者においても生産意欲が高まるのではないかと。また、その事が就農にも繋がるのではないかと。そして産業化にもつながるのではないかと考える。企業等との契約農家は存在するのか。

⇒聞いていない。

○各議員意見

・農林水産課の説明で、本市の課題を確認することができたが一般的な内容のため、本市の特徴を分析しなければならない。

耕作物別の高齢化率や後継者人数、漁業においても同様の調査が必要である。

販売先の確保や流通のネットワークについても、商品の質や量を向上させる取組が必要である。

本市の地場産業として明確に位置付け、課題の解決や改善にむけて具体的な対策を進めなければならない。

・魅力創造部も同様であるが、彩誉（ニンジン）等ブランド認定するだけで、販路拡大対策等への協力体制がない。包近の桃、彩誉等の具体的な対応が必要である。

以前から指摘しているが、市内飲食店等、岸和田市挙げての取り組みが必要である。

同様に漁業においても、「あこう」を大阪府は「新・大阪府豊かな海づくりプラン」においてブランド化するが、岸和田市としての独自性に欠ける。市内漁業組合等の関係団体等との連携が希薄である。

また、基本的な魅力創造部内等、庁内連携すら取れていないのでは、取り組みが実を結ぶことは無い。

さらに、質疑のなかで、判明したが肝心の基礎データも持たず、岸和田の現状分析も出来ていない。まずは、己を知ることからではないか。このことも以前から魅力創造部等にも指摘しているが、すべて人任せである。本気度が計れないため漁連等から信頼されず連携出来ないのも無理はない。

まずは、己を知ることからではないか。このことも以前から魅力創造部等には指摘してきたが等閑のままである。

資料にもあるように、流通ルートの拡大等によって、また、全国的には農協の合併等、J Aを取り巻く環境は厳しい。各J Aも生き残りをかけた生存競争を勝ち抜くための対策が必要である。

岸和田市としてこれからの時代に相応しいJ Aとはどうあるべきか、今、岸和田市・J A組合員、並びにその他の非組合員等との連携を考えたとき、J Aは何をなすべきと考えるのか。

・岸和田の農業で、耕地面積についてH 1 7 年が前後の年に比べて大きく減少しているのはなぜか。

農家戸数での、「販売農家」「自給農家」について、前者は専業農家のことと説明があったが、いま岸和田で専業が4 9 3 戸もあるとは思えない。

（その後農林水産課長から、販売農家とは3 0 アール以上の農地で5 0 万円以上の販売額を得る農家との訂正をいただいた。）

1 0 アールの田で米の収量は1 0 ～1 5 俵、1 俵の米価が1 万5 千円だから収入は1 5 万～2 0 万円ほどにしかない、と説明があった。これでは生産価格にも達しないだろう。

しかし、細々とした家族経営の農業が岸和田の農地を維持していると言えるのではないか。したがって、米作をはじめ家族経営の農家にとって、生産価格を補うだけでなく一定の意味ある副収入となる必要があると思う。

・岸和田に於ける農業部門では

果樹・・・桃、みかん、イチジク、ブドウ、いちごが美味しくて有名。

野菜・・・人参の彩誉(あやほまれ)、水茄子が有名で、他に玉ねぎ等たくさん

の種類野菜が収穫されている。

J Aいずみのが運営する愛彩ランドに各方面から多くの購入客が訪れ、賑わっている。

しかし、農業に従事する方々は高齢化し、後継者不足で豊かな土壌だった田畑も荒れ果てつつある。

今後、農業後継者を育成するにはどうすべきか、それが一番の課題だと思う。

・岸和田市の農業従事者の年齢構成について質問したが、明確な答弁はなかった。

また、農家から農協を経由せず、直に消費者や、生産者に取引を行っている件数など検証が必要である。

次回の開催は、9月20日（金）13時から
各自、より課題を深める。